



昆虫標本の修復作業に当たっている弘前大学の
中村剛之准教授＝同大学

弘大・中村准教授

標本修復で被災地支援

陸前高田市立
博物館収蔵品 昆虫409点根気強く

東日本大震災で壊滅—県陸前高田市立博物館
的な被害を受けた岩手に収蔵されていた、昆

虫や植物の標本を修復し、スタッフ6人のう
するプロジェクトが進ち5人が死亡、1人が
んでいる。津波の被害行方不明になってい
を受けた標本の修復はる。また、地元の歴史
世界でも例のない取りや自然を知る上で貴重
組んで、昆虫についてな資料の多くが海水や
は岩手県内外の19施設大量の泥に漬かった。
が後方支援。その一つ同博物館の所蔵品の
である弘前大学白神自修復作業は、岩手県立
然環境研究所の中村剛博物館が4月下旬に着
之准教授(右)は「陸前手。関係団体を通じ
高田の復興の力になりて、昆虫標本1万2千
たい」との思いを胸点をはじめ、植物標本
に、研究の合間に地道などを修復する協力先
な作業を続けている。を採っていた。
同市立博物館は、1中村准教授は、昆虫
959年に開館した岩担当学芸員協議会から
手県初の総合博物館。電子メールを受け、
東日本大震災で2階建「陸前高田の人々が長
ての博物館全体が損壊年苦勞して集めたもの

を大切にしたい」と協に付いた泥やカビを取却する予定。中村准教
力を申し出た。6月13授は「必ずしも珍しい
日にチョウ、トンボ、った羽や脈を可能な限資料ばかりではない
ガなど計409点の標り元に戻したり、細やが、地元の自然を知る
本が届き、修復作業をかて根気の要る作業だためにも、その土地を
進めている。中心に採取された資料
消毒や塩抜きに始まが限界」だという。が残っていることが重
り、筆や注射器で標本標本は1年以内に返要だ」と話している。

デーリー東北
2011.7.03